

1. 科目コード

1290

2. 科目名

ビジネスプロセス演習

3. 担当教員

二見 強史 (Tsuyoshi Futami)

4. 開講期

春3期

5. 履修要件(前提科目)

「1299 ビジネスプロセス特論」を履修しているか、または同等の知識を有することが望ましい。

6. 科目の目的・概要

ビジネスアナリストは、推奨したソリューションに責任を持つことが求められます。

このコースでは、失敗事例や成功事例からビジネスアナリシスを学びます。

多数のケースをこなすことで問題解決能力を養います。

参考 昨年度はDXとプロフィットセンターとしての情シス、一昨年はイノベーションが指定課題でした

7. 授業概要

- 1 オリエンテーション
- 2 簡単な指定課題のレポート提出と発表及び課題解決のための基礎理論の講義
- 3 同上(指定課題は全員同一課題、発表は全員が少なくとも1回以上)
- 4 同上
- 5 同上
- 6 同上
- 7 同上
- 8 同上
- 9 同上
- 10 同上
- 11 同上
- 12 同上
- 13 同上
- 14 同上
- 15 フリー課題(各自独自)の発表
- 16

8. 教科書

事例から学ぶビジネスアナリシス,2013,IIBA日本支部

<http://www.iiba-japan.org/know-how/BAsps.pdf> からダウンロード可能

9. 参考書

ロバート.イン「ケーススタディの方法」

日経コンピュータ中「動かないコンピューター」の記事など

10. 科目の学習目標

- (1) 問題の原因の追究と解決へ知識体系を適用できる。
- (2) 答えの見えないところに回答を作り出すに知識体系を利用できる。
- (3) 問題を発生させないようにすることに知識体系を応用できる。

- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)

11. 本学の教育目標と科目の学習目標との対応

教育目標		学習目標	
高度ICT スキルの修得	基礎的素養 専門知識および業務応用力	(1),(2),(3)	
人間力 (=探究力) の修得	自ら強みを磨き続ける力	(1),(2),(3)	
	自ら社会における 課題を発見し、 解決する力	課題設定	(1),(2),(3)
		仮説立案	(1),(2),(3)
		仮説検証	(1),(2),(3)
		実行	(1),(2),(3)
	社会人基礎力	前に踏出す力	(1),(2),(3)
考え抜く力		(1),(2),(3)	
チームで働く力			
職業倫理の修得			

12. 評価方法と配点

学習目標	達成度評価方法と配点					
	期末試験	小テスト	レポート	発表	成果物	その他
(1)			○	○		
(2)			○	○		
(3)			○	○		
(4)						
(5)						
(6)						
配点			50	50		

13. 評価基準

期末試験	
小テスト	
レポート	指定課題の発表資料の提出
発表	フリー課題の発表内容を評価する
成果物	
その他	

14. アクティブラーニング

授業時間全体に占めるアクティブラーニングの時間的な割合		0%
1	授業で得られた知識や技能を活用し、出題された問題を解いたり、課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
2	グループワークで課題に取り組む、学生同士が自由に発言することで何らかの課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
3	能動的学習の成果を発表し、そのフィードバックを得て自ら主体的に振り返り、学習効果を高める	B
4	学生自身が主体となって、授業における学習の方向性を定める	A

15. 備考

ケーススタディは、ビジネススクールで用いられている教育目的のものと、仮設検証のために用いられるものと2種類あります。講義では、参考図書「ロバート・イン『ケーススタディの方法』」を用いて後者の方法論を概説します。

16. 授業計画

(注)授業計画は、あくまでも予定であり、実施時に、適時、追加・変更・修正等が生じる場合があります。

第1回 (オリエンテーション) (講義と演習180分)

1. 授業の進め方
2. 社会科学の方法論
ICT、経済学、経営学、統計学の中からビジネス課題解決の基礎理論を説明する

第2回～第14回 (事例研究) (講義とグループ演習で180分)

- ・前回提示したテーマに対する発表 前半90分
- ・社会科学の方法論講義と次回発表テーマの提示後半90分

第15回 (発表会) (発表と講評で180分)

発表内容は第2回～第14回までの間に各自決定した自由テーマでの発表(グループでの発表可)